

---

タイトル：アンナのように  
聖書箇所：ルカ2章36～38

## 【母の日】

今日は5月10日、母の日です。今年は、コロナの影響でお母さんに会えない人も沢山いると思いますが、今日は、お母さんや自分の奥さんの普段の労に心から感謝したいと思います。コロナで家にいる時間が多くなってから、女性の大変さを手伝わずとも横で見たような気がします。毎日の食事・洗濯・買い物・経済的な管理、ある意味家庭が回るために必要なほとんどの行動を奥さんがやっているように思います。でも対価は何もありません。黙々とやれば「良い妻」と言われ、文句や不平でも言おうものなら「うるさい嫁」と呼ばれてしまう始末です。

でも、この母の日、複雑な気持ちで過ごす方も多くおられると思います。わたしの家庭もそうですが、離婚した方やお母さんから傷を受けた方もおられるでしょう。このご時世、様々な立場の方がおられます。教会としても、世間一般と同じようにただのイベントのように「お母さんおめでとう」で終わりではなく、様々な立場にある女性の方々が主によって明るく過ごすことができるかを考える日となればと思います。

全ての既婚女性の皆様に創造主の愛が注がれますようにお祈りしております。

## 【アンナ】

聖書は男性の名前が比較的多く出てきます。特に旧約聖書の時代はそうでした。また新約聖書も同じです。そのような中で、私たちが今月通読しているルカによるイエス・キリストの福音の最初には沢山の女性が出てきます。イエス様のお母さんのマリヤ、ヨハネのお母さんエリサベツ。その中でも今日はアンナという女性に注目して考えてみたいと思います。

この女性について聖書が記述しているのはたったの3節です。ルカによるイエス・キリストの福音2章36、37、38節だけです。先ほど聖書箇所をお読みしたように、彼女の84歳までの人生をこの3節にギュッと詰めて書かれています。

36節・37節の初めはこのような下りから始まっています。「また、アシェル族のパヌエルの娘で、女預言者のアンナという人がいた。彼女はもうかなり年を取っていた。娘の頃結婚して7年間、結婚生活をした後、未亡人になって、今は84歳になっていた」この2節の短い言葉の中にアンナさんの人生が描かれています。彼女は、イスラエル民族の民として生まれて、女性の預言者として活躍をしていたわけです。旧約聖書にも女性の預言者が数人出てきます。新約聖書の時代には、旧約聖書を教えて説く説教者のような働きがメインの働きだったようです。数少ない女性の預言者として働きをなしていました。そして、若い頃に結婚をしたとも書かれて

います。多くの聖書では「彼女が若い時に」とか「娘」の時  
にという表現をしていますから、相当に若い時であったと想像  
できます。聖書の時代では、15歳前後でも結婚する事が  
あったと聞きます。そう考えても20歳前後で結婚したのでは  
ないかと思います。その後、7年間は夫と結婚生活がありま  
したが、その幸せな生活もたった7年でした。夫が死に未亡  
人となったと聖書に書かれています。

結婚生活は、現代でも様々な形で終わりを告げる時があり  
ます。クリスチャンであってもそうですが、わたしの家庭で  
もそうですが離婚に至ってしまい、妻が一人残される事もあ  
ります。また、アンナのように夫が死亡し女性が一人残され  
る場合もあるでしょう。現代は様々な事情で、結婚生活が終  
わり、女性が1人で生きていかなければならなくなる、女性  
が1人で家庭を支えていかなければならなくなる事が多い時  
代だと思います。

### **【本の紹介：離婚から立ち直る】**

今週は、「離婚から立ち直る」という本を半分まで読みまし  
た。この本は、どうやって離婚から立ち直る事ができるか、  
どのようにして離婚後の世界をクリスチャンとして歩む事が  
できるかについて書かれた非常に珍しい本です。その中で書  
かれていた印象的な言葉は「創造主はこのままにしておかれ  
ず、1人1人が創造主によって回復されることを望む」という  
ことでした。

ちょっと、余談になりましたが、このアンナさんは、わずか20代のうちに主人と死に別れ、未亡人の時を相当長い時間過ごしてきました。37節を読めば、未亡人のまま84歳まで生きてきた事が分かります。

短くまとめられた彼女の人生ですが、言葉にできない辛さもあったでしょう。寂しさもあったでしょう。困難もあったでしょう。

### 【どのような態度で生きたか】

でも37節には、このような状態でもアンナさんがどのような態度や心持ちで過ごしていたかが書かれています。37節の後半です「彼女は、いつも主の宮にいて、夜も昼も、断食して祈りながら、創造主に仕えていた」と書かれています。夫を失い、幸せだった結婚生活を失い、子供が居たかどうかは書かれていませんが、当時でも相当大変な時代を、アンナさんは、過ごしました。

人生はいつでも選択の道があります。何を選ぶか、何を考えて生きるかが、その後の人生に大きな影響を与えてきます。アンナさんもそのような困難な状況の中で、いつも創造主の近くにいることを選択しました。もちろん、これは彼女が女の預言者であった事も関係していると思います。しかしながら、夫が死に、環境的に苦しくなる中で他の決断もできたはずですが、彼女は創造主の側で祈り、主に仕えることを選んだのです。

現代でこのアンナさんの生き方をすぐに真似することは難しいでしょう。女性として大変な環境に置かれたら、すぐに創造主に心を向けて、そこで過ごすということは非常に難しいと思います。

でも、女性の人生の生き方や心の持ち方の根底として、創造主の側で暮らす、つまり創造主を完全に頼って生きることの大切さをアンナさんは教えてくれています。これは、現在結婚してご主人が居たとしても、またそうでないとしても、人生の選択肢としていつも創造主を近くに置く、選んでいくことは大切です。なぜなら、ご主人よりも創造主は私たちのことを責任を取ってくださり、愛してくださるからです。(これはご主人を軽視しているわけではない！)

## 【証】

それは、わたしが実際に経験した事です。私の両親が仲が悪く、父親が家を出て行った時、お金が一切入りませんでした。しかし、その時に私たちの食べるもの・必要な外出を支えてくださったのは創造主です。もちろん、創造主が多くの方を用いて支えてくださったのですが、そのタイミングといい助けの度合いといい、創造主のご計画と助けであったとしか言いようがありませんでした。私たちが弱さを感じる時、その責任を完全に負ってくださる方は創造主しかいません。アンナさんは、それを知り、何よりも創造主の側で生きることを決断したのです。

## 【その結果】

今日の聖書箇所最後の**39節**には、そのような態度で過ぎてきたアンナさんに素晴らしいプレゼントが待っていました。**39節「イエスを両親が清めのために主の宮に来られた時、ちょうど彼女もそこに居て、創造主に感謝を捧げ、救い主を待ち望んでいるイスラエルの人々に、この幼子こそ救い主だと語った」**。清めの儀式のために主の宮にきたイエス様とお会いできた女性となったのです。それだけではありませんでした。救い主を必要としている人々にイエス様を紹介する大切な役割を与えられたのです。アンナさんを通して、どれほどの人々が救いを受けたでしょうか。人間的には困難な状況の中を生きてきたように見える女性でした。また、創造主を知らない人にとっては、創造主の近くで過ごすなんて無意味だと思えたかもしれません。無駄な時間や労力だと思われたかもしれません。しかし、人生の最後には、多くの方々に救い主を伝える素晴らしい働きを任される事になったのです。聖書ではわずか3節で10行にも満たない人生の記述ですが、創造主の目には非常に大きく用いられた女性となりました。

## 【母として・妻として・女性として】

今日は、母の日です。今は様々な形でのお母さんや妻として生きておられる方々がおられます。しかし、その中で、女性として創造主に近づく生き方をするならば、創造主に用い

られる女性となるでしょう。

たとえ、今、皆さんが生きておられる時間・場所で創造主に近づく、創造主を選ぶ事が無駄に思えても、ぜひ、それを今から行ってください。もしそれを続けるなら、例え、この地上では、1つの家庭の母として、一人の夫の妻として、また、シングルの母として生きたとしても、またその他の形で母や妻として生きたとしても、創造主には非常に大きな働きをなした女性として写るでしょう。

この地上ではたったの3節の人生に思えるかもしれせん。でも、大切なのは創造主に喜ばれる生き方、創造主の望まれる選択をする人生です。なぜならば、その報いは天で多くあるからです。

### 【お願い】

- ・ご家庭のある方—ご主人や子供は奥さんやお母さんにそのような時間を提供してください。
- ・お一人の方—ぜひ、自分のための時間として、創造主との時間を取ってください。

※みなさんにアンナのような祝福ある女性として生きていかれることをお勧めし、祝福いたします。